

富医ニュース

No.566 平成31年1月1日

一般社団法人 富田林医師会

会長 宮田 重樹

〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38

TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858

E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

平成30年度「富田林地域における

地域包括ケア推進のための多職種連携研修会」の開催について

本会では富田林市・富田林歯科医師会・富田林薬剤師会と共催により、医療・介護関係者等を対象に標記研修会を下記のとおり開催いたします。

本研修会は、地域包括ケア推進のため、高齢者支援に関わる医療・介護の従事者がそれぞれの専門性を活かしたチームアプローチの強化、推進を目指しています。そのため、多職種でのグループディスカッションでは医師会会員の皆様からのご意見を必要としていますので、ぜひご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

つきましては、Faxに必要事項をご記入の上、平成31年1月11日(金)までに、富田林医師会事務局にお申し込み下さいますようお願い申し上げます。

記

- 日時 平成31年1月27日(日) 13:30～16:00
- 場所 富田林市市民会館 中ホール(富田林市粟ヶ池町2969番地の5)
- 内容 (1) 専門職の事業紹介
(予定) (2) 講演:「ターミナル期における多職種連携について」
講師:医療法人ひばり ひばり往診クリニック 森井 正智先生
(3) 事例検討・グループディスカッション
- 対象 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、
歯科衛生士、栄養士、ケアマネジャー、訪問介護員、地域包括
支援センター、市町村職員等 定員150名

本研修の修了者の医療機関で、同意いただける場合に富田林市で作成する地域資源冊子に研修受講医療機関として掲載させていただきます。

※この研修は、大阪府医師会生涯研修システム登録研修となっていますので、当日ご参加の折には「生涯研修チケット」をご持参ください。本会は、生涯教育制度「2.5単位」、取得カリキュラム「10、13、19、29、82」を申請中です。

新年会のご案内

日時 平成31年1月26日(土) 18時～20時

場所 コンラッド大阪 38階 ボールルーム2

大阪市北区中之島3-2-4

Tel.06-6222-0111

調 整 日

12月分 1月8日(火)
PM3:00まで

1月分 2月7日(木)
PM3:00まで

1月の予定

- 7日(月)・仕事始め
- 8日(火)・休日診療委員会
・調整日
- 9日(水)・救急災害医療委員会
- 11日(金)・理事会
- 15日(火)・学校医部会
- 21日(月)・訪問看護ステーション
運営委員会
- 22日(火)・感染症対策委員会
- 25日(金)・広報調査委員会
- 26日(土)・新年会
(コンラッド大阪 18時～)
- 27日(日)・多職種連携研修会
- 28日(月)・広報調査委員会
(校正)
- 29日(火)・休日診療委員会

平成30年 12月定例理事会

日 時 平成30年12月14日(金)

13:30より

場 所 医師会 特別会議室

会長挨拶

報告事項

- 1) 2019年ゴールデンウィーク中の休日診療所の出務について (休日診療委員会)
- 2) 災害時に保健所が対策本部になることについて (救急医療委員会)
- 3) 平成30年医師・歯科医師及び薬剤師の届出並びに保健師、助産師、看護師の業務従事者届について
- 4) 平成30年度「歳末たすけあい運動」へご協力について

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 来年度に開催される第10回認知症フォーラムについて、2019年11月23日(祝)すばるホールでの開催を予定。
- 3) 風疹ワクチンの件
- 4) 70周年記念式典準備委員会の件
- 5) 多職種研修会の件
- 6) ブルーカードシステム(緊急時患者受診システム)の導入検討について。

富田林医師会学術講演会

記

日時 平成31年1月24日(木) 14:00~15:00

場所 医師会 研修室

【特別講演】

座長 富田林病院 消化器内科

部長 小牧 孝充 先生

「消化管エコーの描出のポイント」

～症例を加えて～

演者 富田林病院 臨床検査科

生理検査室 眞鍋 朋美 技師

近年、高齢化社会を迎え、非侵襲性かつ最小限の検査選択で確定診断を得ることが少なからず要求され

ようになってきました。中でも超音波検査は診断や治療に欠かす事が出来ない情報をもたらすツールとして利用されています。超音波装置の登場以来、心臓や実質臓器において普及して参りましたが、消化管においては不適當な検査と考えられてきました。しかし、超音波装置の性能の向上に伴い、病的な状態の消化管では、壁の肥厚や腸管内に液体が充満することによってガスが減少するなど好条件となり描出できることが分かってきました。

しかし決して万能な検査ではありません。また描出においては超音波装置の長所や短所、患者様の体形や症状の時間経過などを考慮する必要もあります。

今回、消化管エコーにおける描出のポイントを中心に当院の症例を含めてご紹介させていただきます。

※本会は生涯教育制度**1単位**が取得できます。(カリキュラムコード(10・53))

※大阪府医師会指定学校医認定研修の申請をしております。

富田林医師会訪問看護ステーション

富田林医師会訪問看護ステーションは、平成7年設立、今年24年目となります。当時3人の看護師から始まり、現在は看護師常勤5名、パート2名、事務員パート2名です。平成12年介護保険が始まった年にケアプランセンターの事業を開始し、ケアマネージャー常勤3名が働いています。訪問看護、ケアプランセンター共に、24時間体制をとり利用者数は、訪問看護で88名、ケアプランで110名です。

患者様は様々な疾患の方からの依頼があり、医師会だけに医療ニーズの高い方が多いのが特徴です。

富田林医師会内の地区とその近隣の市町村の訪問にも対応しています。医師会の先生方、気になる患者様がおられたら、介護保険の申請の代行や説明、訪問看護師の訪問等行かせていただきますので、気軽にご相談下さい。富田林医師会訪問看護ステーションとして、地域に根差し、利用者様の在宅生活を傍らで支えていけるよう、これからも一層努力してまいりますので、よろしくお願ひ致します。

第9回 とんだばやし認知症市民フォーラムに参画

平成30年11月17日(土)に第9回とんだばやし認知症市民フォーラムがすばるホールで開催されました。多

くの市民が集まり、医師会の先生方もパネリストとして参加されました。

市民の方々は大変興味深く、熱心に聞いておられました。

フォーラムの中で、今年
は在宅医療について取り上げられました。富田林医師会での在宅医療の取り組みを坂口先生が説明され、訪問看護について富田林医師会訪問看護ステーション管理者の増本看護師が説明しました。

市民の方々は、医師会のシステム、在宅でもいろいろな医療と看護を受けられることに驚きと関心を持たれていました。



専門医より一言



橋本市民病院 脳神経外科
部長 大饗 義仁 先生

現在高齢化の社会問題として、消費者被害、高齢者の交通事故、行方不明者、高齢者虐待などさまざま取り上げられていますが、これら高齢化の社会問題は、大きく認知症と関連しています。そのため、こういった社会問題への対策は、認知症の対策をすることが重要となります。

その中でも重要なのは、かかりつけ医の役割です。かかりつけ医では、早期発見、早期診断できるように専門の医療機関との連携が重要です。診断された後も、介護との連携やBPSDが出現した時の対応、終末期の対応などかかりつけ医での役割が大きく、その都度専門の医療機関との連携も必要になってきます。認知症の治療薬は、現在4種類ありますが、もの忘れ外来では、その方にあった薬を調整していきます。さらに認知症の進行が認められる場合、薬の変更や追加をおこな

います。また認知症に対する治療は、薬を出すことだけではありません。介護と連携をしたり、家族の方に認知症の方への対応法を指導したりします。認知症対策は、医療機関だけでなく、介護、行政、地域の力が必要です。例えば徘徊する方への対策として、徘徊ネットワーク作りや、徘徊模擬訓練の施行など、医療機関、介護、行政、地域全てが協力して円で支える街づくりが大切です。そのような街は、認知症の方がその人らしく最後まで暮らせる街づくりということが出来ますし、このように支え合える街づくりというのは、大きな災害がおこった場合にも強い街づくりということができると思います。

2019年10月の消費増税に伴う 診療報酬等改定について

【診療報酬改定】

1. 診療報酬改定(2019年10月実施) +0.41%

各科改定率	医科	+0.48%
	歯科	+0.57%
	調剤	+0.12%

2. 薬価等(2019年10月実施)

①薬価 ▲0.51%

※うち、消費税対応分	+0.42%
実勢価改定等	▲0.93%

②材料価格 +0.03%

※うち、消費税対応分	+0.06%
実勢価改定	▲0.02%

【介護報酬改定】

1. 介護報酬改定 +0.39%

※捕捉給付に係る基準費用額の引き上げ分の対応として、別途国費7億円程度

2. 新しい経済政策パッケージに基づく介護人材の処遇改善国費210億円程度

【障害福祉サービス等報酬改定】

1. 障害福祉サービス等報酬改定 +0.44%

2. 新しい経済政策パッケージに基づく障害福祉人材の処遇改善国費90億円程度



* 鉄道トリビア ～エキスポこだま～

2025年大阪万博が開催されることが決まり、色々と盛り上がっています。様々な相乗効果が期待されていますが、そのアクセスの土台となる鉄道網においても大阪メトロ中央線・JR桜島線の延伸、京阪電車の乗り入れなど興味ある話題がつきません。それは1970年の大阪万博でも同じであり、御堂筋線と阪急千里線が万博の期間中だけ万博公園内へ乗り入れたことはご存知の方も多いかと思いますが、国鉄が東京へ帰る客のために設定した「エキスポこだま」という臨時列車があったのをご存知でしょうか。今回はそのお話を。

東京から万博にやってくる乗客を捌くため、国鉄はそれまで12両編成メインであった新幹線を16両編成へ増強しました。しかし、春休みに入り万博への客は予想を上回る勢いで増加します。万博会場の閉門時間が22時30分に延長されると、東京方面へ帰る最終の新幹線に乗りきれない乗客がでてくるようになります。しかし保線などの都合と周辺への騒音問題から、それ以上遅い時間に新幹線は増発できず、苦肉の策として登場したのが「エキスポこだま」です。これ

は「こだま」でありながら新幹線ではなく、在来線の客車急行の車両を使用



して22時58分に大阪駅を発ち、翌日6時53分に静岡県



の三島に到着。三島を7時5分に発車する「こだま492号」東京行きに乗り換えて、8時10分に東京駅に到着するというダイヤ設定でした。これは在来線の臨時夜行列車と、三島駅の車両基地から東京へでる「回送列車」を組み合わせたものでした。在来線列車がそのまま東京へ乗り入れると、過密ダイヤの間を縫うことになって乱れが生じることも懸念されたことを考えての策でした。使われた車両も、定期列車の客車を回すわけ

にはいきませんから、使用されたのは古くなって予備車扱いとされていた旧型の客車の寄せ集めでした。もちろん座席は背もたれの倒れない直角のボックスシート。当時はまだ座席の定期夜行列車はたくさん走っていましたが違和感はなかつ



12月行事・会合

- 6日(木)・学術講演会
・調整日
- 7日(金)・耳鼻科医会
- 10日(月)・会長副会長連絡会議
- 14日(金)・理事会
- 17日(月)・訪問看護ステーション運営委員会
- 21日(金)・広報調査委員会
- 25日(火)・広報調査委員会(校正)
- 28日(金)・耳鼻科医会
・事務所 仕事納め

たのかもしれませんが、新幹線の愛称である「こだま」を名乗りながら、夜通し硬い座席に座って移動するというのは今では考えられないことかと思えます。それでもこの列車は定員1000人に対し、乗車率は90%を超えていたそうです。高度成長時代、やれることはなんでもやっしまえという気概が感じられる列車だなあと思えます。今の時代、これをやっても喜ぶのはマニアだけなんだろうなあ…ではまた。
(zenkun)

お詫び

富医ニュース 12月号 No.564 1P 調整日および児島副会長のお名前に間違いがありました事をお詫び致します。

- 会員数(1月1日現在) 188名
A会員 97名 B会員 91名
- 入会 なし
- 退会 11月30日
妙中 直子 A2B(自宅会員)
- 異動 なし

広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治	天城 完二	植村 匡志
	江村 俊也	奥野 敦史	尾多賀雅哉
	遠山 佳樹	中村 元	藤岡 洋
	山本 善哉	山村 友良	